

◆幼稚部より『ヤシの木が枯れている?』～シリーズ2～

1/31に、グアムアグリカルチャー(農林省)の方が来校されてCOCONUT RHINOCEROS BEETLEの生態について、分かりやすく教えてくださいました。

卵～幼虫～蛹～成虫 約1年ぐらいで成虫になり、ヤシの木を食べ尽くすビートル。

大きな虫眼鏡で本物の虫を観察する事もできました。全校の児童生徒も見学に来て、みんな興味深そうに話を聞いていました。



その後、すでに再生ができなくなっているやしの木を農林省の方々が伐採をしてくれました。ヤシの幹からは幼虫が続々と出てきました。切ったヤシの木は50センチ間隔で切り取り積み上げ、ライノービートルの成虫を捕まえる罠をつくりました。翌日、罠のところに行ってみるとすでに数匹がネットの罠に捕まっていました。

自分たちが暮らしている身近な環境で起こっている事ヤシの木がビートルに荒らされ減ってきている事を、自分たちの問題として考えてみてほしいと思っています。もし、ヤシの木がなくなったら?美しい環境が無残な姿になってしまうのを、たとえ微力でも関われないだろうか?

今は小さな活動でも、いつか子どもたちが成長していく中で、『そういえば幼稚園の時 こんな活動をしたね、小さな力だけど、何かやってみることは面白かったな』と心に留めてもらえたら、と願っています。

幼稚部教員 山野井 多美子

◆文集椰子より『一番』 小峯 ひかる

私が、この14年間生きてきて一番尊敬する人は母、父です。なぜ、母と父を選んだかという、私の人生で一番身近な人だからです。

母は、いつも人に優しく、自分より相手のことを思う人です。母は、私の具合が悪いときや、私が悲しんでいるとき、いつも私のそばにいてくれました。ケンカする時もありますが、次の日には話し合っ、仲直りします。母には、人の心を読みとれる力、相手の人を思う気持ちがあります。父は、頑張ることや面白い話をいろいろ教えてくださいました。

父は、いつも仕事をしていて忙しいですが、頑張っ、私たちとの時間を作っています。また、父は、自分の夢に向かって頑張った人です。父の話は面白くいつも私を笑わせてくれます。父と一緒に働いている人も笑っています。父から聞いた話だと、祖父から「普通に会社で働いたほうがいい。」と言われたそうです。けれど父は、自分がやりたい仕事をし、それを祖父に認められるように必死に頑張りました。人との繋がりが増え、今、グアムのオンワードのシェフをしています。この話を聞くと、『可能性』という言葉が浮かんできます。

私は、母の相手の気持ちを思う力、父の自分の可能性を感じ、自分の決めた道を歩む生き方を目指したいです。また、二人の娘になれたことを誇りに思っています。

◆卒業おめでとう!!「夢があり羽ばたく子」

中学3年生6名がグアム日本人学校全日制を飛び立っていきます。

＜卒業生の進路＞

秀明八千代高等学校 / 福岡県立香住丘高等学校 / 東京都三田高等学校 / JFK High School



◆伝統ある補習校で学ぼう

グアム補習授業校 校長 井澤 恒春

月刊誌「海外子女教育」(海外子女教育振興財団発行)の2018年1月号に掲載された在外教育施設の情報を調べて見ると、文科省が補習授業校と日本人学校の双方を認可している都市(地域)が、世界に27か所あります。これは世界の補習校219校の12%にあたり、決して多いとは言えませんが、10年前の約2倍です。補習校のニーズが世界的に高まっているのではないのでしょうか。そして27か所の多くは欧州やアジアの都市であり、グアムは、そのなかで人口の最も少ない都市(地域)です。人口の少ない島に補習授業校があり、日本人学校も設立された、世界で稀なグアムです。

グアムに補習校が開校したのは1975年。学校の沿革史を見ると、1972年に日本人会の教育部が中心となって、日本語教室の開校を検討したことが補習校の始まりです。本校は、45年間の歴史を刻む、伝統ある補習授業校です。そして、1989年には、日本人会の皆様のご尽力によって、グアム日本人学校も設立されました。

一般に補習授業校は、義務教育の学齢で、平日は現地校に通っている子どもたちに、一部の教科の学力を補う目的で授業を行う学校です。

現在、本校では、

- ①「国語(日本語)」は毎週土曜日に、週4時間
- ②「算数・数学」は火～金曜の夕方に、2×1 = 週2時間
- ③「日本語会話」の授業を、火・金曜の夕方に、2×2 = 週4時間

の授業を行っています。年間40週の授業を行いますから、1年間で「国語」は160時間、「算数・数学」は80時間、「日本語会話」も160時間にのぼり、子どもたちの学力向上と日本語力向上につながっています。

また、小学1年生の準備コースとして、1年間のプリスクールクラスのクラスを開設しています。毎週土曜日の午前中に4時間、日本語で授業を行い、歌やリズム、ひらがなの学習、基本的な生活習慣、集団行動、挨拶など、4月から翌年3月までの1年間に40日、計160時間の授業で、小学校入学に備えます。

普段は現地校で英語を通じて学び、さらに、伝統ある補習校で日本語を習得し、未来志向の力を獲得しようではありませんか。